



追加型投信 / 国内 / 株式

三菱UFJ 日本株オープン「35」

ファンド情報提供資料
データ基準日: 2024年3月29日

当ファンドの運用状況と今後の運用方針等

平素は「三菱UFJ 日本株オープン「35」」をご愛顧賜り、厚く御礼申し上げます。本資料では、当ファンドの運用状況および今後の運用方針等についてご説明いたします。

当ファンドの設定来の運用状況

- 当ファンドは、中長期的な事業の収益性・成長性が見込まれ、かつ十分な投資成果が期待できると判断し選別した「35銘柄」に主に投資することで、ベンチマークである東証株価指数(TOPIX)(配当込み)を上回る投資成果をめざしています。
- 当ファンドのパフォーマンスを見ると、2024年3月末の基準価額(分配金再投資)は、投資成果を積み上げ、設定時の約4.3倍になりました。

当ファンドのパフォーマンス

(期間: 1999年3月24日(設定日)~2024年3月29日)



・東証株価指数(TOPIX)(配当込み)は当ファンドのベンチマークです。当ファンドは2024年3月にベンチマークを設定来から「配当込み指数」に変更しました。
 ・基準価額(分配金再投資)は、1万口当たりであり、運用管理費用(信託報酬)控除後の値です。信託報酬率は、後記の「ファンドの費用」に記載しています。
 基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものとして計算しています。

優秀ファンド 受賞

「三菱UFJ 日本株オープン「35」」が、
 イボットソン・アソシエイツ・ジャパン株式会社による
 「Morningstar Awards 2023」日本/2023年/日本株式 部門におきまして
 優秀ファンドを受賞いたしました。

Morningstar Awards 2023 ©. Morningstar, Inc. All Rights Reserved.
 三菱UFJ 日本株オープン「35」が日本の日本株式の優秀ファンドを受賞



©2023 Morningstar. All Rights Reserved. ここに含まれる情報は、(1) Morningstar および/またはそのコンテンツ提供者の専有財産であり、(2) 複製または配布は禁止されており、(3) 正確性、完全性及び適時性のいずれも保証するものではなく、また(4) 投資、税務、法務あるいはその他を問わず、いかなる助言を構成するものではありません。ユーザーは、この情報の使用が、適用されるすべての法律、規制、および制限に準拠していることを確認する責任を単独で負います。Morningstar およびそのコンテンツ提供者は、この情報の使用により生じるいかなる損害または損失についても責任を負いません。過去の実績は将来の結果を保証するものではありません。

・上記はイボットソン・アソシエイツ・ジャパン株式会社による2023年6月30日を基準日とした評価です。当該評価は過去の一定期間の実績を示したものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。

・上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。

三菱UFJ 日本株オープン「35」

過去半年間の市場環境と当ファンドの運用状況（2023年10月～2024年3月）

■市場環境(国内株式市場)

- ・ 当該期間の東証株価指数(TOPIX)(配当込み)は、21%上昇しました。
- ・ 米国の金融引き締め長期化による世界的な景気減速懸念が高まったことなどにより、TOPIXは下落する局面も見られましたが、米国のインフレや金融政策を巡る過度な懸念の後退や、日本企業の決算内容が概ね堅調であったことなどを背景に、当該期間は上昇基調で推移しました。

■当ファンドの運用状況

- ・ 当該期間の当ファンドの基準価額は、26%上昇しました。
- ・ 業種別では、陸運業や食料品の組入比率をベンチマーク対比で低くしていたこと等がベンチマークを上回る要因となりました。
- ・ 個別銘柄では、生成AIや半導体に関連するエレクトロニクス製品の中長期的な需要の拡大期待などから、デクセリアルズ(化学)や日東紡績(ガラス・土石製品)、トリケミカル研究所(化学)等がプラスに寄与しました。その一方で、期待された中国をはじめとするEV(電気自動車)販売の減速によるマイナス影響が懸念されたスミダコーポレーション(電気機器)、大口ユーザーの投資抑制と在庫調整が業績の下振れ要因となったイビデン(電気機器)、株式市場の期待を下回る決算を発表したエンプラス(電気機器)等がマイナスに影響しました。

＜主な投資行動＞

- ・ 半導体の微細化や生成AIなど新たな需要の顕在化による中長期的な需要が期待されるテクノロジー関連および金融や医療のデジタル・トランスフォーメーション(DX)関連などを集中的にリサーチしました。その中で、アドバンテスト(電気機器)やディスコ(機械)等の半導体製造装置メーカーは、技術進化が継続する半導体産業で、メガトレンド(大きな潮流)による恩恵を享受できる銘柄と判断し、新規に組み入れました。一方で、トリケミカル研究所や日東紡績は、業績拡大を背景に株価が順調に上昇したことなどから一部売却しました。

・ 上記は当ファンドの理解を深めていただくことを目的としており、個別銘柄の推奨を目的とするものではなく、当ファンドにおいて上記の銘柄を今後も組み入れることを保証するものではありません。業種は、東証33業種で分類しています。

直近3年間の当ファンドのパフォーマンス（期間：2021年3月31日～2024年3月29日）



半期毎の騰落率	2021/4- 2021/9	2021/10- 2022/3	2022/4- 2022/9	2022/10- 2023/3	2023/4- 2023/9	2023/10- 2024/3
当ファンド	8%	-8%	-8%	14%	10%	26%
東証株価指数(TOPIX)(配当込み)	5%	-3%	-4%	11%	17%	21%

・ 当ファンド：基準価額(分配金再投資)を使用。運用管理費用(信託報酬)控除後の値です。信託報酬率は、後記の「ファンドの費用」に記載しています。基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したもとして計算しています。

・ 東証株価指数(TOPIX)(配当込み)：当ファンドのベンチマークです。当ファンドは2024年3月にベンチマークを設定来から「配当込み指数」に変更しました。・ 表示桁未満の数値がある場合、四捨五入しています。・ 上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。

三菱UFJ 日本株オープン「35」

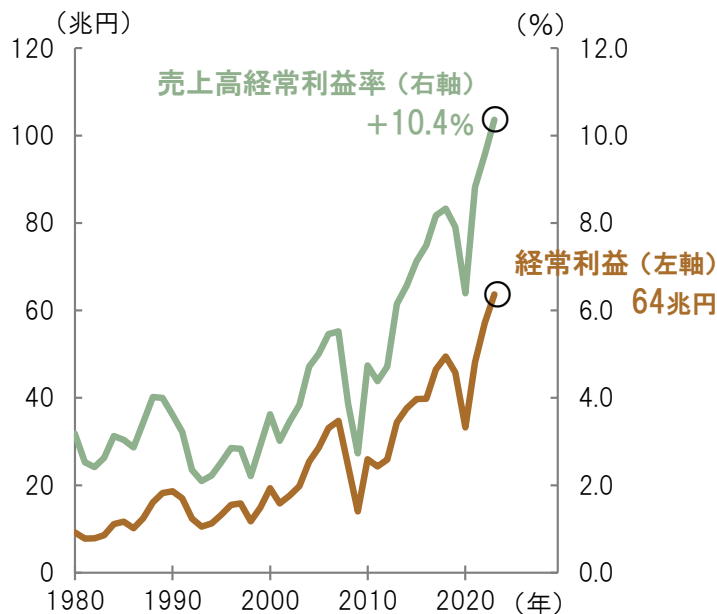
運用担当者による、今後の市場見通し

- 国内企業はこれまで長きに亘るデフレの苦しい状況下において、たゆまぬ企業努力により利益と利益率の向上を図ってきました。日本企業の強みともいえる堅実な経営は守りの経営であり少々物足りなく映っていたかもしれませんが、足下、経常利益は上がり、売上高に占める経常利益率も上昇しています。今後は資本・人材など攻めの投資をすることで稼ぐ力がクローズアップされ、力強い成長が期待できると考えています(右グラフ参照)。
- 昨今、国内企業が攻めの経営に舵を切り始めており、既存の枠を超えたイノベーションが花開くものと期待しています。国内企業は、もともと技術力やモノ作りに強みを持っています。これに開発力や資本、人材の積極的な活用が加わることで、国内株式市場により多くの成長・再成長企業が生まれるでしょう。

(2024年3月29日時点)

大企業の経常利益と売上高経常利益率の推移

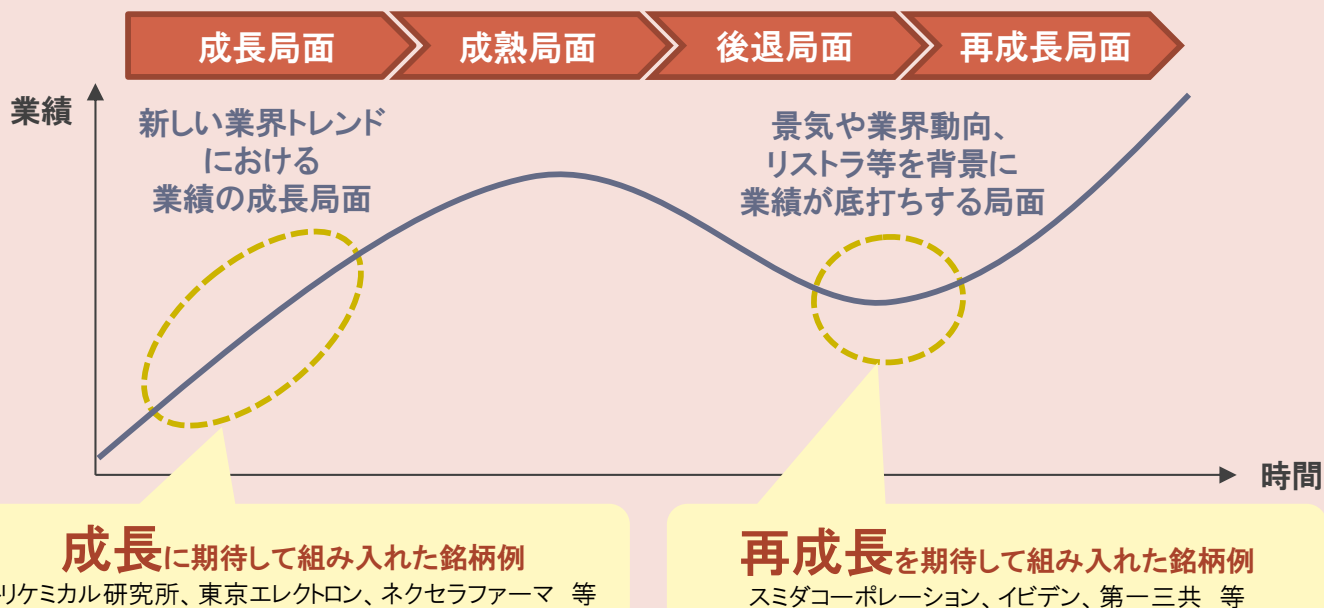
(期間:1980年~2023年)



・法人企業統計(全産業(除く金融保険業))、四半期累計値
(出所)財務省のデータを基に三菱UFJアセットマネジメント作成

《「企業の成長・再成長」の局面推移(イメージ図)》

下記は当ファンドが着目している「企業の成長・再成長」の局面推移をイメージ化したものです。黄色で丸を付けた2つの局面(成長局面と再成長局面)について、当ファンドでは厳選して銘柄を選定しています。成長企業には需要が高い市場でトップシェアを誇る銘柄や小型の新興銘柄等が、再成長局面には成熟企業で再び大きな変化の兆しが見込める銘柄等が入ります。具体例として2024年3月末時点の当ファンドの組入上位15銘柄の一部を記載しました。



・上記は、当ファンドへのご理解を深めていただくために作成した「企業の成長・再成長」の局面推移のイメージ図です。したがって、個別銘柄の推奨を目的とするものではなく、当ファンドにおいて上記の銘柄を今後も組み入れることを保証するものではありません。・ネクセラファーマ:2024年4月1日に「そせいグループ」より社名変更をしました。・上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。

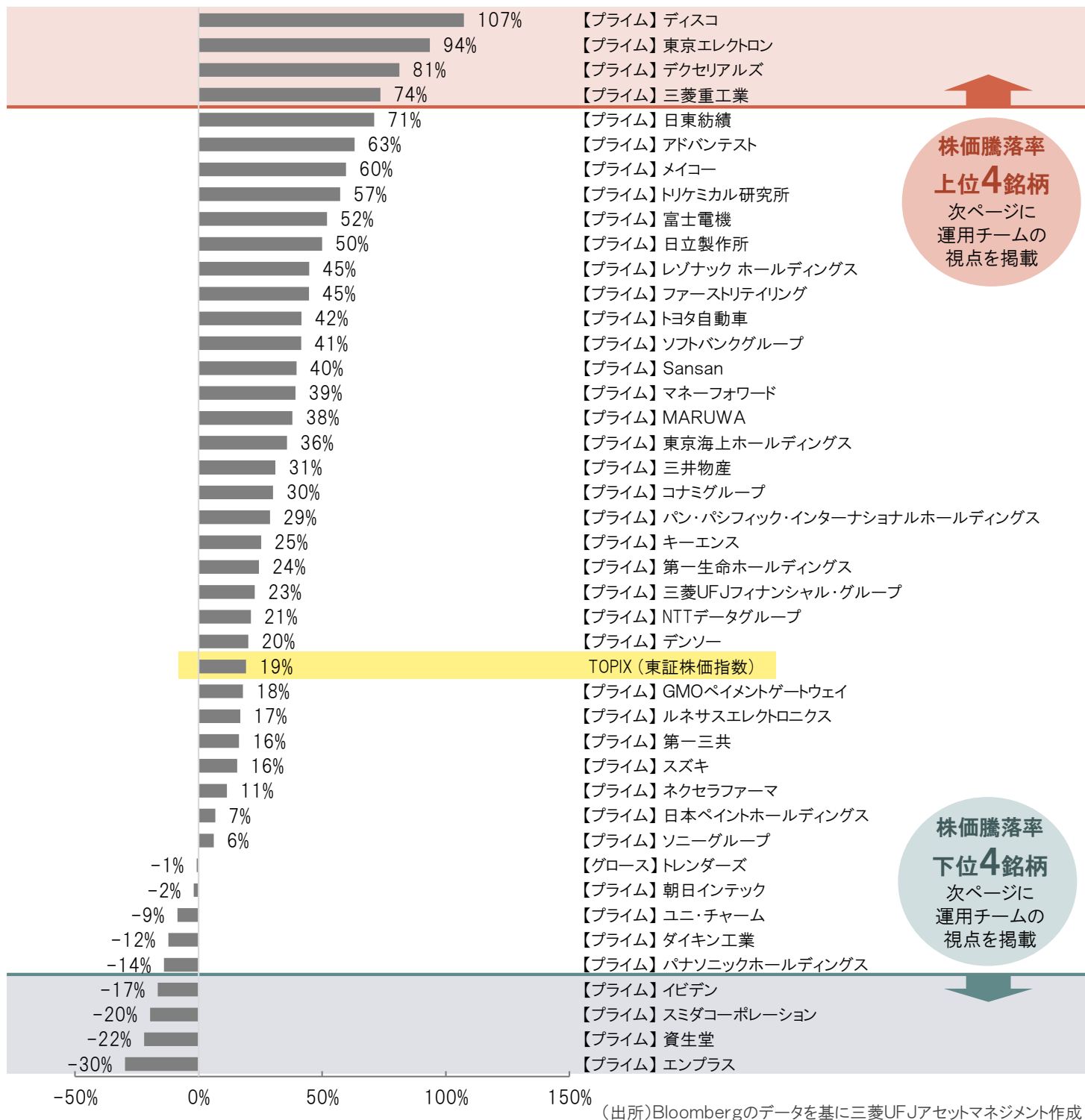
三菱UFJ 日本株オープン「35」

【ご参考】組入銘柄の株価騰落率(2023年9月29日～2024年3月29日)

当ファンドが組み入れている銘柄について、ご紹介いたします。

下記は、2024年3月29日時点における当ファンドの組入全銘柄とTOPIXについて、直近半年間における株価騰落率を算出し、降順に並べたものです。

※当ファンドにおける保有期間等を考慮したのではなく、当ファンドへの寄与度、運用成果とは異なります。



株価騰落率
上位4銘柄
次ページに
運用チームの
視点を掲載

株価騰落率
下位4銘柄
次ページに
運用チームの
視点を掲載

・上記は、作成時点で上場している市場(【プライム】【スタンダード】【グローズ】)を記載しており、将来変更される場合があります。
 ・ネクセラファーマ:2024年4月1日に「そーせいグループ」より社名変更をしました。・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入しています。・上記は当
 ファンドの理解を深めていただくために記載したものです。したがって、個別銘柄の推奨を目的とするものではなく、当ファンドにおいて上記の銘柄を今
 後も組み入れることを保証するものではありません。

・上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。

三菱UFJ 日本株オープン「35」

前ページの株価騰落率上位・下位4銘柄につきまして、「運用チームの視点」を中心に銘柄を紹介します。

■ 株価騰落率上位 4 銘柄 (2023年9月29日～2024年3月29日)

<p>1. ディスコ</p> <p>銘柄の概要: 「切る」「削る」「磨く」に特化した、半導体や電子部品向けの世界的な装置メーカー</p> <p><運用チームの視点> 生成AIの需要拡大を背景に、半導体向け精密加工装置が拡大しています。加えて、今後は自動車の電動化で成長が見込まれるパワー半導体(高い電圧、大きな電流を扱うことができる半導体)向け装置の本格的な業績貢献にも期待しています。</p>	<p>2. 東京エレクトロン</p> <p>銘柄の概要: 半導体の製造装置を作るグローバルリーディングカンパニー</p> <p><運用チームの視点> 情報通信技術の拡充に伴うデータ社会への移行や脱炭素社会への取り組みを背景に、電子機器を支える半導体の役割とその技術革新の重要性が高まっています。半導体製造装置に関する市場は、中長期的な成長が見込まれ、同社の企業価値向上に追い風となる見通しです。</p>
<p>3. デクセリアルズ</p> <p>銘柄の概要: スマートフォンや自動車等に強みを有するニッチな接合材料、光学材料等を製造・販売</p> <p><運用チームの視点> 技術トレンドを先回りした製品開発や事業再評価による入れ替えなど、事業の質的転換を着実に実行しています。並行して自動車など新規領域での事業拡大も推し進め、2018～2022年度の連結売上高の年平均成長率は+15%の二桁成長となりました。積極的な株主還元も評価しており、更なる飛躍を期待しています。</p>	<p>4. 三菱重工業</p> <p>銘柄の概要: 造船事業を核に、自動車や航空機、タービン、内燃機関など様々な事業に進出</p> <p><運用チームの視点> 環境意識の高まりにより、強い競争力を持つ発電プラント、CO2回収プラントなどの受注拡大や、原子力発電所の再稼働対応などが中長期的な業績成長に追い風となる見通しです。またロシアによるウクライナ侵攻が長期化する中、安全保障に関する意識の高まりから航空・防衛・宇宙事業の底上げと収益改善にも期待ができると考えています。</p>

■ 株価騰落率下位 4 銘柄 (2023年9月29日～2024年3月29日)

<p>1. エンプラス</p> <p>銘柄の概要: エンジニアリングプラスチック(工業用プラスチック)の技術を基軸に事業を展開</p> <p><運用チームの視点> 業績が計画を下回って推移したことなどから、株価は調整を余儀なくされました。同社は半導体の性能を確認するために必要なソケットを開発しており、ソケットの需要は半導体の高性能化に伴い拡大していくとみています。また光と電気の信号を変換する同社のプラスチックレンズはデータセンターの通信量増大を背景に成長が予想されます。</p>	<p>2. 資生堂</p> <p>銘柄の概要: 世界で勝てる日本発のグローバルビューティーカンパニーをめざす化粧品メーカー</p> <p><運用チームの視点> 中国における景況感の悪化などから厳しい業績となり、株価は軟調に推移しました。中長期的な市場環境見通しを踏まえたコスト構造の適正化に向け、グローバルでコスト削減を完遂するとともに、適正な地域への資源配分により不透明で変化の激しい市場環境にも柔軟に対応できる経営基盤の構築を進めている点を評価しています。</p>
<p>3. スミダコーポレーション</p> <p>銘柄の概要: コイル関連の部品およびモジュール製品の設計と製造等</p> <p><運用チームの視点> EV(電気自動車)向けについて、最大の市場である中国でやや減速感が台頭したことなどが懸念され、株価は調整しました。自動車産業のカーボンニュートラルに向けた動きが加速する中、EV関連の新規プロジェクトを数多く獲得している同社の中長期的な成長見通しに変わりはありません。</p>	<p>4. イビデン</p> <p>銘柄の概要: セラミックや建築資材、電子機器の開発および製造、販売</p> <p><運用チームの視点> データセンター向けサーバー市場において、大口ユーザーによる投資抑制と在庫調整が継続し同社製品の需要が懸念され、株価は下落しました。しかし、ビッグデータを扱うサービスの拡大などから、データセンター向けに付加価値の高いCパッケージ基板(電子基板)の需要が高まっており、将来の企業価値向上に寄与するとみています。</p>

(出所)各社HP、各種資料を基に三菱UFJアセットマネジメント作成

・コメントは2024年3月29日時点のものであり将来予告なく変更されることがあります。・上記は当ファンドの理解を深めていただくために記載したものです。したがって、個別銘柄の推奨を目的とするものではなく、当ファンドにおいて上記の銘柄を今後も組み入れることを保証するものではありません。・上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。

三菱UFJ 日本株オープン「35」

【ご参考】想定する日経平均株価水準（2024年3月29日時点）

日経平均株価の2024年度の見通しは36,100円から43,200円を想定しています。

※ 日経平均株価は当ファンドのベンチマークまたは参考指数ではありません。

- ・ 前提は日経平均株価の予想PERで15倍～17倍、為替は145円～155円(1米ドル)としています。
- ・ 予想PERが15倍、145円(1米ドル)等の前提で日経平均株価は36,100円程度の水準を想定、予想PERが17倍、155円(1米ドル)等を前提とした場合は、日経平均株価は43,200円程度の水準を想定します。

為替・PER(株価収益率)水準からの日経平均株価予想 2024年度、円

	日経平均株価 予想水準			
	PER 15倍	PER 16倍	PER 17倍	PER 18倍
米ドル 140円 ユーロ 150円	35,100	37,400	39,800	42,100
米ドル 145円 ユーロ 155円	36,100	38,500	40,900	43,300
米ドル 150円 ユーロ 160円	37,100	39,600	42,000	44,500
米ドル 155円 ユーロ 165円	38,100	40,600	43,200	45,700
米ドル 160円 ユーロ 170円	39,100	41,700	44,300	46,900

・日経平均株価予想＝一株当たり純利益×PER(株価収益率) ・「一株当たり純利益」は運用チームの予想値 ・上記は、運用チームの見解です。

運用担当者による、今後の運用方針

- 今後も運用哲学、ファンドコンセプトに則った運用を継続します。

当ファンドの運用チームの運用哲学は、「利益を生み出す力と時代の風を見極める」こと、当ファンドのコンセプトは、「企業の成長性(企業の成長・再成長)に着目し厳選した銘柄に投資すること」です。成長局面では成長の源泉を、再成長局面では経営の変革等の観点を重視します。事前に局面ごとの方向性を綿密に見極め、中長期的に企業価値を高める企業を見出すべく、「成長・再成長」にフォーカスしたボトムアプリサーチに注力していきます。

- 定期的なエンゲージメントを継続していきます。

当運用チームとして成長が見込まれると考えている分野*¹(脱炭素社会、デジタル化、人口の高齢化)の関連企業を中心に対話を重ねています。その対話では、取締役会の実行性、成長分野への資本・人材投資、収益構造改善策に対する提言を行うことで、中長期的な目線で企業価値や株主価値の向上に繋がる行動の変化を促します。*¹:2024年3月29日時点のものであり、今後変更する場合があります。

これからも当ファンドを通じて、みなさまの資産形成の一助となるよう尽力してまいります。

(2024年3月29日時点)

2023年度より、一般社団法人日本IR協議会*²が主催する「IR優良企業賞」(優れたIR活動を実施している企業を選定・発表)の審査委員になりました。審査委員会のメンバーとして、国内主要運用会社のエンゲージメントに対する取り組みにリアルタイムで接しています。

*²:IR活動の普及と質の向上を目指して活動する非営利団体

・エンゲージメントとは、企業の成長や企業価値向上を目的に、機関投資家等が投資先企業や投資を検討している企業に対して行う対話のことをいいます。・市況の変動等により、上記の運用方針通りの運用が行えない場合があります。・当ファンドの運用担当者とその肩書は2024年3月29日時点のものであり、将来変更される場合があります。



三菱UFJアセットマネジメント
エグゼクティブファンドマネジャー
小島 直人

・上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。

【本資料で使用している指数について】

■東証株価指数(TOPIX) ■日経平均株価 本資料中の指数等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。また、発行者および許諾者が指数等の正確性、完全性を保証するものではありません。各指数等に関する免責事項等については、委託会社のホームページ(<https://www.am.mufg.jp/other/disclaimer.html>)をあわせてご確認ください。

三菱UFJ 日本株オープン「35」

追加型投信／国内／株式

ファンドの目的・特色

■ファンドの目的

わが国の株式を実質的な主要投資対象とし、「企業の成長性」に着目して厳選した「35銘柄」に主に投資を行い、東証株価指数(TOPIX)(配当込み)を上回る投資成果をめざします。

■ファンドの特色

特色1 わが国の株式を主要投資対象とします。

特色2 「企業の成長性」に着目して厳選した「35銘柄」に主に投資します。

・「35銘柄」に絞り込んで投資することで、全産業に投資するよりも高いパフォーマンスをめざします。また、より綿密な情報分析と継続フォローの徹底を図ります。

特色3 銘柄選定は、個別企業訪問等を通じ分析するボトム・アップ・アプローチにより行います。

特色4 東証株価指数(TOPIX)(配当込み)をベンチマークとし、これを上回る投資成果をめざします。

■ファンドの仕組み

・運用は主に日本株オープン「35」マザーファンドへの投資を通じて、わが国の株式へ実質的に投資するファミリーファンド方式により行います。

■分配方針

・年1回の決算時(3月23日(休業日の場合は翌営業日))に分配を行います。

・分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。

・原則として、決算日の基準価額水準が当初元本額10,000円(10,000口当たり)を超えている場合に、当期の基準価額上昇分の範囲内で分配します。

・分配対象収益が少額の場合には、分配を行わないことがあります。また、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

市況動向および資金動向等により、上記のような運用が行えない場合があります。

投資リスク

■基準価額の変動要因

ファンドの基準価額は、組み入れている有価証券等の価格変動による影響を受けますが、これらの運用により信託財産に生じた損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。

したがって、投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

投資信託は預貯金と異なります。

ファンドの基準価額の変動要因として、主に以下のリスクがあります。

価格変動リスク	一般に、株式の価格は個々の企業の活動や業績、市場・経済の状況等を反映して変動するため、ファンドはその影響を受け組入株式の価格の下落は基準価額の下落要因となります。
信用リスク	組入有価証券等の発行者や取引先等の経営・財務状況が悪化した場合またはそれが予想された場合もしくはこれらに関する外部評価の悪化があった場合等には、当該組入有価証券等の価格が下落することやその価値がなくなること、または利払い・償還金の支払いが滞ることがあります。
流動性リスク	有価証券等を売却あるいは取得しようとする際に、市場に十分な需要や供給がない場合や取引規制等により十分な流動性の下での取引を行えない場合または取引が不可能となる場合、市場実勢から期待される価格より不利な価格での取引となる可能性があります。

■その他の留意点

・ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリングオフ)の適用はありません。

・ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金の申込みの受付が中止となる可能性、換金代金のお支払が遅延する可能性があります。

・収益分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益の水準を示すものではありません。収益分配は、計算期間に生じた収益を超えて行われる場合があります。

投資者の購入価額によっては、収益分配金の一部または全部が、実質的な元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり率が小さかった場合も同様です。

収益分配金の支払いは、信託財産から行われます。したがって純資産総額の減少、基準価額の下落要因となります。

・ファンドは、ファミリーファンド方式により運用を行います。そのため、ファンドが投資対象とするマザーファンドを共有する他のペビーファンドの追加設定・解約によってマザーファンドに売買が生じた場合などには、ファンドの基準価額に影響する場合があります。

ご購入の際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

三菱UFJ 日本株オープン「35」

追加型投信／国内／株式

手続・手数料等

■お申込みメモ

購入単位	販売会社が定める単位／販売会社にご確認ください。
購入価額	購入申込受付日の基準価額 ※基準価額は1万口当たりで表示されます。基準価額は委託会社の照会先でご確認ください。
換金単位	販売会社が定める単位(ただし、1万口を上回らないものとします。)／販売会社にご確認ください。
換金価額	換金申込受付日の基準価額
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して4営業日目から販売会社においてお支払いします。
申込締切時間	原則として、午後3時までに販売会社が発付けたものを当日の申込分とします。
換金制限	ファンドの資金管理を円滑に行うため、大口の換金のお申込みに制限を設ける場合があります。
購入・換金申込受付の中止及び取消し	金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止すること、およびすでに受付けた購入・換金のお申込みの受付を取消すことがあります。
信託期間	無期限(1999年3月24日設定)
繰上償還	受益権の口数が10億口を下回るようになった場合等には、信託期間を繰上げて償還となることがあります。
決算日	毎年3月23日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	年1回の決算時に分配を行います。 販売会社との契約によっては、収益分配金の再投資が可能です。
課税関係	課税上は、株式投資信託として取扱われます。個人受益者については、収益分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の譲渡益に対して課税されます。公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合に「NISA(少額投資非課税制度)」の適用対象となります。ファンドは、NISAの「成長投資枠(特定非課税管理勘定)」の対象です。販売会社により取扱いが異なる場合があります。くわしくは、販売会社にご確認ください。NISAの概要等については、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。税法が改正された場合等には、変更となることがあります。

■ファンドの費用

お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料 購入価額に対して、**上限2.2%(税抜2%)**(販売会社が定めます)
(購入される販売会社により異なります。くわしくは、販売会社にご確認ください。)

信託財産留保額 ありません。

お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用(信託報酬) 日々の純資産総額に対して、**年率1.65%(税抜年率1.5%)**をかけた額

その他の費用・手数料 監査法人に支払われるファンドの監査費用・有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料・有価証券等を海外で保管する場合、海外の保管機関に支払われる費用・その他信託事務の処理にかかる諸費用等についてもファンドが負担します。
※上記の費用・手数料については、売買条件等により異なるため、あらかじめ金額または上限額等を記載することはできません。

※運用管理費用(信託報酬)および監査費用は、日々計上され、ファンドの基準価額に反映されます。毎計算期間の6ヵ月終了時、毎決算時または償還時にファンドから支払われます。

※上記の費用(手数料等)については、保有金額または保有期間等により異なるため、あらかじめ合計額等を記載することはできません。
なお、ファンドが負担する費用(手数料等)の支払い実績は、交付運用報告書に開示されていますのでご参照ください。

本資料のご利用にあたっての注意事項等

●本資料は、三菱UFJアセットマネジメントが作成した資料です。投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認ください。●本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。●本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。●本資料中のグラフ・数値等は、過去の実績・状況であり、将来の市場環境等や運用成果等を示唆・保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。●投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。銀行等の登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の補償の対象ではありません。●投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。

●委託会社(ファンドの運用の指図等)

三菱UFJアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号

加入協会: 一般社団法人 投資信託協会

一般社団法人 日本投資顧問業協会

<ホームページアドレス> <https://www.am.mufig.jp/>

<お客さま専用フリーダイヤル> 0120-151034

(受付時間 営業日の9:00~17:00)

●受託会社(ファンドの財産の保管・管理等)

三菱UFJ信託銀行株式会社

ご購入の際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

販売会社情報一覧表

投資信託説明書(交付目論見書)のご請求は下記の販売会社まで

ファンド名称:三菱UFJ 日本株オープン「35」

商号	登録番号等	日本証券業協会	一般社団法人 日本 投資顧問業 協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種 金融商品 取引業協会
アイザワ証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第3283号	○	○		○
株式会社イオン銀行(委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社)	登録金融機関 関東財務局長(登金)第633号	○			
いちよし証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第24号	○	○		
auカブコム証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第61号	○	○	○	○
株式会社SBI証券	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第44号	○		○	○
株式会社SBI新生銀行(委託金融商品取引業者 株式会社SBI証券)	登録金融機関 関東財務局長(登金)第10号	○		○	
株式会社SBI新生銀行(委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社)	登録金融機関 関東財務局長(登金)第10号	○		○	
東海東京証券株式会社	金融商品取引業者 東海財務局長(金商)第140号	○	○	○	○
松井証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第164号	○		○	
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号	○	○	○	○
株式会社三菱UFJ銀行(※)	登録金融機関 関東財務局長(登金)第5号	○		○	○
三菱UFJ信託銀行株式会社	登録金融機関 関東財務局長(登金)第33号	○	○	○	
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2336号	○	○	○	○
楽天証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○

・商号欄に*の表示がある場合は取次販売会社です。・商号欄に(※)の表示がある場合は新規申込のお取扱いを中止しております。